【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成24年6月28日(2012.6.28)

【公表番号】特表2011-526648(P2011-526648A)
【公表日】平成23年10月13日(2011.10.13)
【年通号数】公開・登録公報2011-041
【出願番号】特願2011-516565(P2011-516565)
【国際特許分類】
Ｃ０９Ｊ　7/04　(2006.01)
Ｃ０９Ｊ　5/06　(2006.01)
Ｃ０９Ｊ 183/07　(2006.01)
Ｃ０９Ｊ 183/05　(2006.01)
Ｃ０９Ｊ 11/04　(2006.01)
Ｃ０９Ｊ 11/06　(2006.01)
Ｈ０１Ｂ 17/56　(2006.01)
Ｈ０１Ｂ 19/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０９Ｊ　7/04
Ｃ０９Ｊ　5/06
Ｃ０９Ｊ 183/07
Ｃ０９Ｊ 183/05
Ｃ０９Ｊ 11/04
Ｃ０９Ｊ 11/06
Ｈ０１Ｂ 17/56　Ａ
Ｈ０１Ｂ 19/00　３２１

【手続補正書】
【提出日】平成24年5月11日(2012.5.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
実質的に溶剤を含まずかつアルケニルシロキサン、水素シロキサン、ヒドロシリル化金属触媒および開始剤を含むシリコーン組成物から形成される、部分的硬化反応中間体を含む硬化性接着テープを形成する方法であって、
該シリコーン組成物を柔軟性基材に塗布する工程と、
該硬化性接着テープの該部分的硬化反応中間体中に未反応アルケニル基が残存するように、該シリコーン組成物を第一所望温度に第一期間加熱して、部分的硬化反応中間体を形成する工程と
を含む硬化性接着テープを形成する方法。
【請求項２】
実質的に溶剤を含まずかつアルケニルシロキサン、水素シロキサン、ヒドロシリル化金属触媒および開始剤を含むシリコーン組成物から、導電性基板上に絶縁層を形成する方法であって、
該シリコーン組成物を柔軟性基材に塗布する工程と、
該シリコーン組成物を第一所望温度に第一期間加熱して、未反応アルケニル基を有する

部分的硬化反応中間体を形成する工程と、
該部分的硬化反応中間体を有する柔軟性基材を導電性基板上に配置する工程と、
該部分的硬化反応中間体を第二所望温度に第二期間さらに加熱して、部分的硬化反応中間体を完全に硬化させ、それにより導電性基板上に絶縁層を形成する工程と
を含む導電性基板上に絶縁層を形成する方法。
【請求項３】
前記シリコーン組成物を第一所望温度に第一期間加熱する工程が、シリコーン組成物のアルケニルシロキサンと水素シロキサンとの間のヒドロシリル化反応に十分であるが、それでも未反応アルケニル基がヒドロシリル化反応後の部分的硬化反応中間体中に残存する請求項１または２に記載の方法。
【請求項４】
前記開始剤が、前記シリコーン組成物を第一所望温度に第一期間加熱する工程の間、活性化されない請求項１～３のいずれか一項に記載の方法。
【請求項５】
前記シリコーン組成物が、ヒドロシリル化金属触媒およびアルケニルシロキサンを含む第一成分と、水素シロキサンおよび開始剤を含む第二成分とを含む二成分系である請求項１～４のいずれか一項に記載の方法。
【請求項６】
前記第一所望温度が１１８℃～１２５℃である請求項１～５のいずれか一項に記載の方法。
【請求項７】
前記第一期間が１２０秒～４５０秒とさらに定義される請求項１～６のいずれか一項に記載の方法。
【請求項８】
前記第二所望温度が１３５℃～２００℃である請求項２に記載の方法。
【請求項９】
前記第二期間が５分～４５分である請求項２に記載の方法。
【請求項１０】
前記導電性基板が、合金または金属を含むか、または母線である請求項２に記載の方法。
【請求項１１】
前記絶縁層が、ＡＳＴＭ　Ｄ４１３による測定で、少なくとも２．０ｐｓｉの導電性基板への接着力を有する請求項２に記載の方法。
【請求項１２】
前記柔軟性基材が、ガラス繊維のような繊維を典型的に含む織物とさらに定義される請求項１～１１のいずれか一項に記載の方法。
【請求項１３】
導電性基板上に配置された絶縁層を含む物品であって、
該絶縁層が、未反応アルケニル基を有する部分的硬化反応中間体と開始剤との反応生成物で被覆された柔軟性基材を含む物品。
【請求項１４】
前記部分的硬化反応中間体が、アルケニルシロキサンと、ヒドロシリル化金属触媒と、水素シロキサンとの反応生成物を含む請求項１３に記載の物品。
【請求項１５】
前記導電性基板が、合金または金属を含むか、または母線である請求項１３または１４に記載の物品。
【請求項１６】
前記絶縁層が、ＡＳＴＭ　Ｄ４１３による測定で、少なくとも２．０ｐｓｉの導電性基板への接着力を有する請求項１３～１５のいずれか一項に記載の物品。
【請求項１７】

前記柔軟性基材が、ガラス繊維のような繊維を典型的に含む織物とさらに定義される請求項１３～１６のいずれか一項に記載の物品。
【請求項１８】
前記開始剤が有機過酸化物を含む請求項１３～１７のいずれか一項に記載の物品。
【請求項１９】
未反応アルケニル基を有する部分的硬化反応中間体で被覆された柔軟性基材を含む硬化性接着テープ。
【請求項２０】
前記部分的硬化反応中間体が、アルケニルシロキサン、ヒドロシリル化金属触媒、水素シロキサンおよび開始剤を含むシリコーン組成物の反応生成物である請求項１９に記載の硬化性接着テープ。
【請求項２１】
前記柔軟性基材が、ガラス繊維のような繊維を典型的に含む織物とさらに定義される請求項１９または２０に記載の硬化性接着テープ。